

平成 2 8 年第 9 回中津川市教育委員会（定例会）議事録（要旨）

日 時 平成 2 8 年 8 月 2 6 日（金） 午後 1 時 3 0 分

場 所 にぎわいプラザ 4 - 1 会議室

出席委員 小栗 仁志 田島 雅子 小幡 隆徳
林 由美 大井 文高

事務職員 早川事務局長・大巾文化スポーツ部長・原教育次長兼学校教育課長
今井事務局次長兼教育企画課長・末木文化スポーツ部次長
西尾教育研修所長・小椋幼児教育課長・足立子育て政策室長
山下発達支援センター所長・西尾阿木高等学校事務長
吉村施設計画推進室長・川合文化振興課長兼市史編さん室長
川上鉱物博物館長・糸魚川生涯学習スポーツ課長
宮嶋中央公民館長

会議日程 1 開 会
2 前回議事録の承認
3 議 事
4 閉 会

番 号	議 題	結 果
議第 2 6 号	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について	承 認
議第 2 7 号	平成 2 9 年度中津川市立阿木高等学校の入学定員について	承 認

【開 会】

【議 事】

【委員長】議事に入ります。日程第1、議第26号中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について、提案説明をお願いします。今井事務局次長。

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

【委員長】1つ目の補正予算につきまして、ご意見、ご質問のある方はお願いします。田島委員。

【田島委員】歳入④節01社会教育費寄附金。ワイ・ケー・ピーさんが50万円とありますが、協同組合たくみさんからはいただいていませんか。

【委員長】糸魚川課長。

【生ス課長】たくみさんからもいただいております。10万円、検討委員会への寄付です。

【田島委員】たくみさんからの10万円は検討委員会へ直接ということですか。この50万円は国際交流事業、元気人づくり基金積立へということですか。

【生ス課長】はい、そうです。

【委員長】それぞれ組織の違いを説明してもらった方がいいかもしれません。

【生ス課長】寄付者のご意向ということで、市の予算に入れる部分を元気人づくり基金積立金へ積み立てておいて、その部分を国際交流の事業にあてていくというものです。たくみさんからのご寄付の方は、直接国際交流の中学生海外派遣の検討委員会へ、本年度の事業に対してご寄付ということで10万円いただきました。

【田島委員】たくみさんから頂戴したものは今年の交流事業で使ったということで、直接行っているからここには載らなくて、ワイ・ケー・ピーさんの思いで元気人づくり基金へという寄付の場合はこちらに載って、それで今積み立ててあって、今年は使っていないということですか。

【生ス課長】前年度にワイ・ケー・ピー工業様からいただいた寄付がございまして、それを取り崩しながら使い、今年の分は積立します。

【委員長】大井教育長。

【教育長】この事業について年度当初に予算を立てるわけです。そうすると、昨年度ご寄付いただいた部分が積み立ててあったものを年度当初予算として充当してあるということで、本年度いただいたものを即使おうということになると、もう今補正を組んでも、済んでいるわけで、これは来年度の事業に充てていけるようにするとか、それ以降とか、そういう予算の運用があるということです。

【田島委員】積み立てというのは、いくらありますか。

【生ス課長】平成27年度末で180万円ありました。今年度35万円を取り崩し今年度事業に充てております。それで新たに今年度50万円いただき、また積み立てに回ります。合わせて195万円の現在額になります。

【委員長】そのほかご意見、ご質問ありましたらお願いします。田島委員。

【田島委員】歳入①さくら保育園の大規模改修と、誠和幼稚園の小規模保育施設新設で、国からこれだけ出ているわけですね。で、歳出では差額があります。差額というのは中津川市が出すものなんでしょうか。

【委員長】小椋幼児教育課長。

【幼教課長】歳出は国と市を合わせた分が支出になります。歳入は国の分です。その差額が市の持ち出しになります。

【委員長】そのほかご意見、ご質問ありましたらお願いします。田島委員。

【田島委員】歳出⑩体育施設の維持管理、みはらし台運動公園の雷による修繕で702万円が要ったわけで、資産経営課に計上という保険金額と一緒になんですが、これはみはらし台の修繕費ですか。

【委員長】糸魚川課長。

【生ス課長】その通りです。

【田島委員】ほかのところの修繕費はまだ上がってないということですね。

【委員長】今井次長。

【事局次長】「※」が付いていることに今気が付いたんですが、資産経営課の予算に入ってくるので、私の方は出さなかったんですが、こういうふうに出してあるということは、保育園と教員住宅の分もここへ出すべきですので訂正します。この2件の分と文化スポーツ部の分を合わせて144万5千円を保険金収入として、「※」の金額を修正いただければ有り難いと思います。

【委員長】ただいまの修正は、損害保険金で144万5千円でよろしいですか。

【事局次長】そうです。

【委員長】落雷による修繕は保険充当ということですね。それでは訂正をお願いします。田島委員。

【田島委員】蛭川のみはらし台運動公園はどれぐらいの方がご存じなのか教えてください。答弁者の方でご存じの方は手を挙げてください。

4人ぐらいいらっしゃったんですけど、私も実は全然知りませんでした。蛭川で迷って上って行ったらありました。すばらしい施設です。広くて、すごくいいところです。子どもたちが野球の練習をしていたように思います。今、答弁者は中津川市の方なのにあまりご存じないということで、本当にもったいないです。できるだけたくさんの方に使用していただかないと照明ももったいないと思います。よろしくお願いします。

【委員長】そのほかご意見、ご質問ありますか。田島委員。

【田島委員】歳入①保育所等における業務効率化推進事業。事務負担を軽減するという形で行っていただけるということですが、もう少し詳しい説明を、業務体系なども含めてお願いします。

【委員長】小椋幼児教育課長。

【幼教課長】この事業は私立への支援という形になります。私立は市への運営費の請求、定期的に受ける監査の調書類の作成管理が大きな負担になっているという状況があります。そのために、こういった支援システムで、業務をたとえばＩＣカードを利用して子どもたちが入ってくると登園、降園が分かるようなシステム、それから帳票類も同じような形で作っていけるような基本のシステムができる。それから保育日誌、保育計画のようなものもいろいろな方が共有できてほかにも展開できるという支援システム。それから、保護者への連絡、こういうことがあったとか怪我をしたので迎えに来てくださいとか、こういう行事をやりますといった連絡体制も、今は手書きのメモで渡していますが、渡し漏れや、そもそもそういう手書きのものを作るのが、ワードやエクセルであっても大変で、たとえばインターネットを利用したメールやアプリで簡単にできて伝え漏れもないといった支援システムがいろいろございますので、こういったことをそれぞれの園で必要なものが違ってくるかと思いますが、園の状況において必要なものをこの補助金を使って導入するといったことで市に出していく部分の事務の軽減、それぞれ抱えているＩＴ化を進めることでの業務の軽減で、負担軽減ができる。保育士の離職防止にもつながる。こういう業務です。

【田島委員】人が各園を回ってとかいうものではないわけですか。

【幼教課長】法人の事業については人件費への対応ではなく、システム、電子システム、支援システムを導入するための経費の一部補助です。

【田島委員】保育園の先生方は特に園長さん方は、自分の机に座るのが土曜日、日曜日とか、本当に遅い時間というような話も伺っています。そういう事務管理の軽減化も、あと保育士さんも同じですが、そういうことが、私たちの望みでもありますので、できるだけ簡素化して、子どもたちに当たれるような時間をたくさん持って、先生方も自分でケアできる時間をたくさん持っていただけると有り難いと思います。

【幼教課長】公立の状況をよく見ていただいてのご意見でありありがとうございます。公立については、今、巡回式、１人で３園ほど持っていて、その方が週１回園を回って事務をするという、人的な支援で事務の軽減を図っていくということですが、今回私立が先行して電子システムということで行っていきますので、公立についてもどういったことが必要になるか、園の状況を見ながら必要なことがあれば費用対効果も見て前向きに進めていきたいと思っています。

【委員長】それでは市議会定例会の２つ目の提案説明をお願いします。小椋幼児教育課長。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】ご意見、ご質問ありましたらお願いします。田島委員。

【田島委員】統合しても、名称は下野保育園ですか。

【幼教課長】地元の要望書からも園の名称について考えてほしいというのが出ましたが、結論としては市内の公立園は原則その地域の名前を冠しているということでご理解いただき、下野保育園のままということになりました。

【委員長】そのほかありますか。小幡委員。

【小幡委員】この2つの園の統廃合によって、ざっとどれぐらいの人的余裕が出てきますか。

【幼教課長】現在の保育士数は、田瀬保育園は園長を含めて4人、下野保育園は園長を含めて6人です。これが下野に移り、少なくとも2、3名程度の保育士がほかの園に回れて、受け入れ態勢の充実になります。

【委員長】そのほかございますか。ないようでしたら、議第26号について、何かございますか。

それでは、ないようですので、議第26号 中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について、は承認とさせていただきます。

続きまして、日程第2、議第27号 平成29年度中津川市立阿木高等学校の入学定員について、提案説明をお願いいたします。西尾事務長。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】それではただいまの議案につきましてご意見、ご質問ありましたらお願いいたします。小幡委員。

【小幡委員】お願いです。今、生徒数がどんどん減っている状況があります。その中で、公立の高等学校でも坂下高校等で定員割れを起こしています。阿木高校についても同じことが言えると思います。子どもたちの状況を見ると、中津川には阿木高等学校があつて大変有り難いと思います。そういう意味で、一生懸命頑張っていると思いますが、なお、中学校等へも働きかけていただいて、魅力ある学校経営をしていただいて、子どもたちが集まるようにしていただければ有り難いと思います。よろしくお願いします。

【委員長】そのほかございますか。田島委員。

【田島委員】阿木高校の重要性は本当によく分かっております。出身中学の状況と、就職・進学状況を教えていただきたいんですが。

【阿高事務長】昨年度は、卒業者数が53名で100%進路が決まっています。進学した者のデータを今持っていないので、正確な数字は分かりませんが13名で、残りの40名が就職です。出身中学は、市内が大体3分の1、恵那市が3分の1、東濃近辺で3分の1です。

【田島委員】確か、今年は少し少なかったようなことを聞いています。恵那と中津川と東濃地域の出身の子たちが阿木高校を利用しているということで。阿木高校の授業の教科書を見せていただいたり方針を伺っていると、基礎基本をしっかりと、

中学の復習をしながら定着させるということで、それがその子の自信につながって社会に出ていく基盤を作ってくださいということで、本当に大事なところですので、できればたくさんの地域から利用してほしいと思います。

それと、私がいつも阿木高校に行って思うのが、本当に社会に直結している高校ですよ。阿木高校を出たらすぐに4月からは自分でお金を稼げる、社会の一員として働けるという子どもたちがたくさん出ていくということで、一つの心配が社会性です。中学、高校と、たくさんの人にかかわって、たくさんの人に意識していただいているところから、社会に出て荒波に入っていかなければいけないということで、大変子どもっぽく見える子どもたちがたくさんおられます。社会の荒波にどう対処していけるのだろうか。離職率は測ってないとは思いますが、就職はできたけど3カ月で辞めたとかいうことにならないように、社会性を身に付ける。それは、先生方だけではなくて職場体験などもたくさんあると思います。小学校のすご技という企画もありますが、これをやってない子どもたちになるわけですので、たくさん外の、今仕事をしている人たちの意見を聴かせてあげたり、心の持っていくところや、職に対する気構えということも、伝えていきながら、強い子を作って、それで社会に出てものびのびと自信を持って生活できていく子を作っていただきたいんです。

社会に出るということは、女性だと、社会イコール結婚です。だから結構早いかもしれません。イコール母親、イコール子育て、次の世代の社会人づくりということですので。非常に阿木高の場合重要なところ。そういうことをできるだけ指導していただきたいをお願いします。

【阿高事務長】ありがとうございます。すご技中津川プロジェクト、小学校期からの進路学習、今年も阿木高は進路に関しては、カウンセリングにしても力を入れています。今、就職は意外と求人が高いんですが、やはり離職率では、昨年卒業した者で2、3人は変わっている子もいます。その点、先生方も悩みがあるところですが、先生方は親身になって子どもたちのことを考えていますので、私が見ても尊敬できる先生方に来ていただいて本当に有り難いと思います。これからもよろしく願いいたします。

【委員長】そのほかよろしいでしょうか。

ないようですので、議第27号 平成29年度中津川市立阿木高等学校の入学定員について、を承認とさせていただきます。

以上で本日の議案は終了しました。次回の日程をお願いします。今井事務局次長。

【事務局次長】次回は9月28日水曜日午後1時30分から、にぎわいプラザ6-1会議室で開催させていただきます。

【委員長】次回は平成28年9月28日水曜日13時30分より、6階会議室で開催します。

それでは以上で平成２８年第９回中津川市教育委員会を閉会といたします。

【閉 会】

〔 閉 会 （午後２時５０分） 〕